

教育課程特例校による特別の教育課程の編成の方針について（英語活動の実施）

1 岡崎市における教育課程特例校指定の沿革

岡崎市では、英語で自分の思いや考えを伝え合うことができる「英語が話せるおかざきっ子」の育成を目指し、平成22年度より教育課程特例校の指定を受け、小学校第1学年から第6学年で「英語活動」を実施してきました。

平成31年度以降、学習指導要領の先行実施に伴い、第5、第6学年で外国語科の授業時間が週2時間に増えたことを受け、教育課程特例校による特別の教育課程の編成を小学校第1学年から第4学年までに変更しました。

2 岡崎市における小学校第1学年から第4学年での取組

岡崎市では、小学校第1学年から第4学年において「英語活動」の授業を行っています。小学校第1学年と第2学年では、「生活科」の時間の35（1年生は34）時間分を「英語活動」に充てています。小学校第3学年と第4学年では、「総合的な学習の時間」35時間分を「英語活動」に充てています。

【資料1】岡崎市の教育課程（基本案）

区分	各教科										特別の教科 道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動 + 英語活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					
第1学年	306		136		68	68	68		102		34	34		0+34	850
第2学年	315		175		70	70	70		105		35	35		0+35	910
第3学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	35	35+35	980
第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	35	35+35	1015
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35	35	70		1015
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35	35	70		1015

各学年における「英語活動」では、毎日10分の帯時間に岡崎市小学英語研究委員会の自作DVD『OKEnglish（約8分のDVD）』を視聴することで、週1コマの授業時間としています。DVDの内容は、英語の歌、フォニクス、リズムに合わせてネイティブスピーカーの後に単語や文を発音する活動、実際に動作をしながら学級の中で他の児童と会話をする活動など多岐にわたります。各学年の発達段階を考慮しながら、学級担任とともにDVDを繰り返し視聴することで、英語の音や基本的な表現に親しめるようにしています。

【資料2】OK English



### 3 本校の取組

1～4年生は、毎日、昼休み後の10分間を「英語活動」の時間＝「Eタイム」として行います。児童らは、動画を視聴しながら、それに合わせて、英語の歌を歌ったり、単語や文を発音したりする活動をしています。児童は、これらの活動をととても楽しんで取り組んでいます。担任は、子供たちと一緒に、動画の中の会話のやり取りを参考にして、実際に児童と会話をしたり、歌を歌ったりしながら活動を進めています。

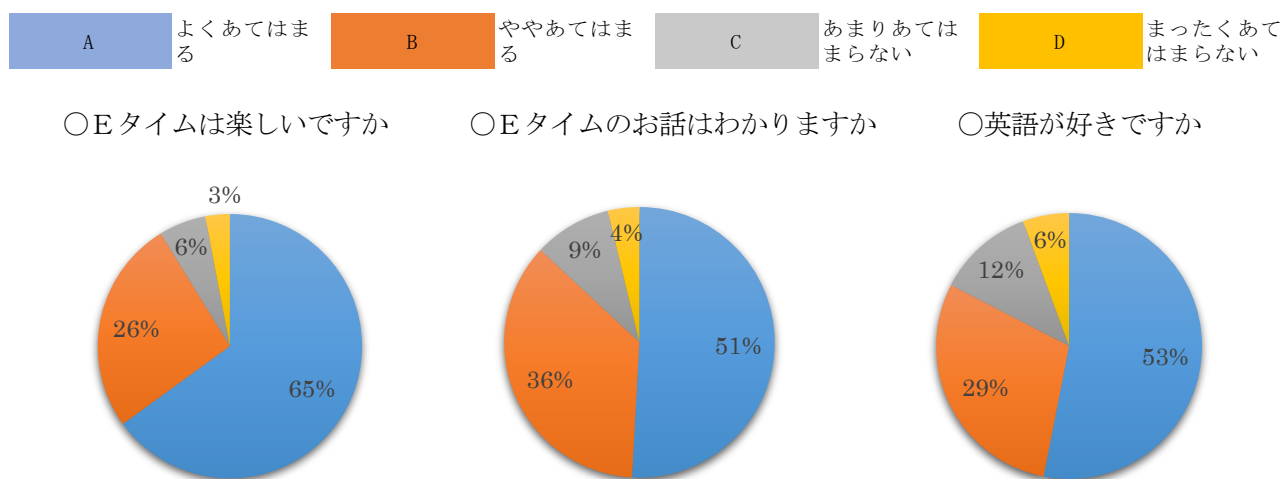
## 令和5年度特別の教育課程の実施状況等について

### 1 自己評価結果

令和5年度に英語活動を行った児童に、英語活動についてアンケートを行ったところ、「Eタイムは楽しいですか」という質問に対し、「とても思う」、「そう思う」と回答した児童は、全体の91%でした。また、「Eタイムのお話はわかりますか」という質問に、「とても思う」、「そう思う」と回答した児童は、全体の87%でした。このことから、児童の多くは英語活動の動画視聴を楽しんでおり、それぞれの発達段階に合った英語を理解している児童が多いことがわかります。

また、「英語が好きですか」という質問に対し、「とても思う」「そう思う」と回答した児童は82%でした。このことから、児童の英語に対する抵抗感は低いと思われます。

【資料3】児童のアンケート結果



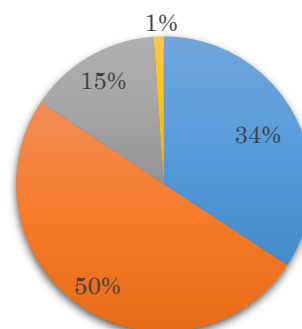
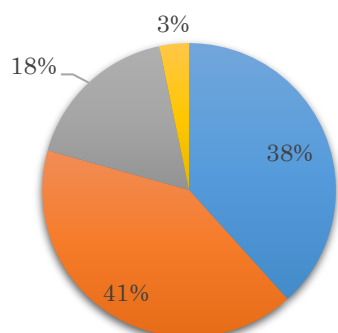
### 2 学校関係者評価結果

令和5年度に行った保護者向けのアンケートでは、「お子さんは英語活動に積極的に取り組んでいる」という質問に対して、「とても思う」「そう思う」と回答した方は81%、「学校は英語活動に積極的に取り組んでいる」という質問に対して「とても思う」「そう思う」と回答した方は84%でした。このことから、英語活動に対して保護者の方より一定の評価を得られていると考えます。

#### 【資料4】保護者のアンケート結果



○お子さんは、英語活動に積極的に取り組んでいる      ○学校は、英語活動に積極的に取り組んでいる



### 3 まとめ

資料3から、児童は日々の英語活動に楽しく取り組んでいることがわかります。また、令和5年度は、「英語が好きですか」の質問に「あまりそう思わない」「思わない」と答えた児童が18%となりました。引き続き、楽しいだけでなく、英語活動が好きな児童の育成に取り組んでいかなければならないと考えます。また、その他の「英語が好きではない」とする要因を引き続き精査し、その解決に向けて取り組んでいきたいと考えます。

資料4から、保護者の方々は、本校の英語活動に対して肯定的な意見が多く、一定の評価を得られていることがわかります。今後も本校の英語活動について児童の力となり、保護者の方の理解を得られるように、教育活動に取り組んでいきたいと考えます。